

瞬快 Re14.0a
機能追加内容説明資料

2005年6月

株式会社 富士通四国システムズ

- 目次 -

1. はじめに	1
2. 機能追加/強化項目概要	1
3. システムリカバリ機能の機能追加/変更	2
3.1. システムリカバリサーバ(PXE 機能)の動作変更.....	2
3.1.1. システムリカバリサーバに登録されている PC に対してのみ、PXE 応答する.....	2
3.1.1.1. 従来の問題点.....	2
3.1.1.2. 解決方法.....	2
3.1.1.3. 注意事項.....	2
3.1.2. 瞬快の「クライアント PC のリモート登録」時、既に登録されている PC はローカルブ トするように修正.....	2
3.1.2.1. 従来の問題点.....	2
3.1.2.2. 解決方法.....	2
3.1.2.3. 注意事項.....	2
3.1.3. システムリカバリサーバ機能を同一セグメント内に 2 台以上配置可能なように修正 ...	3
3.1.3.1. 従来の問題点:.....	3
3.1.3.2. 解決方法:.....	3
3.1.3.3. 注意事項:.....	3
3.2. サービスの予約機能強化.....	4
3.2.1. サービスを予約状態とした場合、明示されるまで継続して予約状態とする.....	4
3.2.1.1. 従来の問題点.....	4
3.2.1.2. 解決方法.....	4
3.2.1.3. 注意事項.....	4
3.3. DNS アドレスの設定.....	5
3.3.1. ディスクイメージ配信後の後処理にて、個別に DNS アドレスの設定を可能とする....	5
3.3.1.1. 従来の問題点.....	5
3.3.1.2. 解決方法.....	5
3.3.1.3. 注意事項.....	5
3.4. OS 所有者/組織情報の設定.....	6
3.4.1. OS の所有者/組織情報の設定を個別に指定可能とする.....	6
3.4.1.1. 従来の問題点.....	6
3.4.1.2. 解決方法.....	6
3.4.1.3. 注意事項.....	6
4. ウィルス対策ソフト連携機能	6
4.1. 新ウィルス対策ソフトへの対応.....	6
5. サポート OS	7
5.1. Microsoft Windows Server 2003 ServicePack1 への対応.....	7
5.2. 瞬快サーバ機能のサポート OS の追加.....	7
5.2.1. サポート追加された OS.....	7

5.2.2. 注意事項.....	- 7 -
6. インストーラ	- 7 -
6.1. スタンドアロン運用時におけるサーバ設定方法の変更.....	- 7 -
6.1.1. 従来の問題点.....	- 7 -
6.1.2. 解決方法.....	- 7 -
6.1.3. 注意事項.....	- 7 -
7. ソフト検証.....	- 8 -
7.1. AutoCAD 2006 との共存について	- 8 -
7.1.1. 検証結果.....	- 8 -
7.1.1.1. AutoCAD 2006(ネットワーク ライセンス)での運用を行う場合 (推奨)	- 8 -
7.1.1.2. AutoCAD 2006(スタンドアロン インストレーション)での運用を行う場合.....	- 8 -

1. はじめに

本資料は、瞬快 R e l 4 . 0 a で機能追加/強化した箇所について記載しております。

初めて瞬快 R e l 4 . 0 a をご利用になるお客様はもとより、従来、瞬快 R e l 4 . 0 をご利用されているお客様におかれては、レベルアップ前に本資料をご参照いただき、R e l 4 . 0 から変更となっている機能についてご理解いただきます様、よろしく願いいたします。

なお、本資料に記載している内容は、主に機能追加/強化した箇所について記載しております。

その他の修正内容については別途、「瞬快 R e l 4 . 0 a 対応内容一覧」をご参照くださいます様、よろしく願いいたします。

2. 機能追加/強化項目概要

以下に瞬快 R e l 4 . 0 a にて機能強化した箇所について記載いたします。

項番	機能分類	機能追加情報	対象製品グレード				
			並	並 + 資源	上	上 + 資源	特 上
1	システム リカバリ	システムリカバリサーバ(PXE機能)の動作変更 (1) システムリカバリサーバに登録されているクライアントPCに対してのみ、PXE 応答するように修正しました。 (2) クライアントPCのリモート登録機能を実行した際、既に登録済みのクライアントPCはローカルブートするように修正しました。 (3) システムリカバリサーバ機能を同一セグメント内に2台以上配置可能に修正しました。	-	-			
2	システム リカバリ	サービスの予約機能強化 サービスを予約した場合に、1回の実行で予約が無効になっていたものを、継続して予約状態とするようにしました。	-	-			
3	システム リカバリ	DNSアドレスの設定 ディスクイメージ配信後の後処理にて、DNSアドレスの設定を可能にしました。	-	-			
4	システム リカバリ	OS所有者/組織情報の設定 ディスクイメージ配信後の後処理にて、WindowsOSの所有者、組織情報の設定を可能としました。	-	-			
5	ウイルス対策 ソフト連携	新ウイルス対策ソフトへの対応 ウイルス対策ソフト連携機能で以下の製品に新たに対応いたしました。 ・ McAfee社 ManagedVirusScan ・ トロントマイクロ社 ウィルスバスターコーポレートエディション(7.0) ・ F-Secure社 F-Secureクライアントセキュリティ					
6	サポートOS	サポートOSの追加 (1) Microsoft Windows Server 2003 SP1に対応しました。 (2) 瞬快サーバ機能を、WindowsXP HomeEdition(SP1/SP2)にインストール可能としました。(並のみ)		-	-	-	-
7	インストラ	スタンドアロン運用時のサーバ選択処理変更 スタンドアロン運用を行う際に、瞬快クライアントインストール時のサーバ指定を不要となるように処理を変更しました。			-	-	-
8	ソフト検証	AutoCAD2006との共存について検証を行いました。					

3. システムリカバリ機能の機能追加/変更

3.1. システムリカバリサーバ(PXE 機能)の動作変更

3.1.1. システムリカバリサーバに登録されている PC に対してのみ、PXE 応答する

3.1.1.1. 従来の問題

従来のシステムリカバリ機能は、システムリカバリ機能が持つ PXE サーバに対して問い合わせを行って来た、全てのクライアント PC に反応していました。そのため、以下の問題がありました。

システムリカバリサーバに登録していないクライアント PC に対しても PXE パケットを配信していたため、セキュリティ的に問題がありました。

別の PXE サーバが存在する環境に、瞬快 R e l 4 . 0 サーバ機能をインストールすると、別の PXE サーバが正常に動作しなくなるという問題がありました。

3.1.1.2. 解決方法

瞬快 R e l 4 . 0 a から、システムリカバリ機能の PXE サーバは、システムリカバリサーバに登録されている MAC アドレスを持つクライアント PC からの問い合わせにのみ反応することで、上記の問題を解決します。

3.1.1.3. 注意事項

導入時など、まだ、システムリカバリ機能(=瞬快に)登録されていないクライアント PC が PXE 起動した場合に、1 分程度 PXE サーバを探索した後、必ず PXE-E53 が表示されローカル HDD より起動します。

これは、DHCP サーバのみ応答し、システムリカバリ機能の PXE 機能が応答していないため発生しています。

この現象は、該当するクライアント PC が、システムリカバリサーバへ登録された時点で解消されます。

3.1.2. 瞬快の「クライアント PC のリモート登録」時、既に登録されている PC はローカルブートするように修正

3.1.2.1. 従来の問題点

システムリカバリサーバへ登録指示を出している場合、すでに瞬快に登録済みのクライアント PC が PXE 起動した場合でも、クライアント登録プログラムが動作していました。

そのため、以下の問題がありました。

クライアント起動プログラムが動作し、いざサーバへ登録しようとする際に、すでに登録されているのでエラーとなり、クライアント PC は DOS 画面で停止してしまい、クライアント PC は手動、もしくは管理機能より電源を OFF する必要がありました。

3.1.2.2. 解決方法

今回、すでに登録されているクライアント PC が、クライアント PC の登録指示中に起動した場合、ローカルブートすることで、上記の問題を解決します。

3.1.2.3. 注意事項

この変更による注意事項はありません。

3.1.3. システムリカバリサーバ機能を同一セグメント内に 2 台以上配置可能なように修正

3.1.3.1. 従来の問題点:

システムリカバリサーバ機能を利用する場合、従来は同一セグメント内に 1 台しか設置できなかったため、同一セグメント内に多数のクライアントが存在する場合、別セグメントを用意できない場合は 1 台のシステムリカバリサーバ機能(=瞬快サーバ機能)で、多くのクライアントを管理する必要がありました。

3.1.3.2. 解決方法:

同一セグメント内に複数のシステムリカバリサーバ機能(瞬快サーバ機能)の設置を可能に修正しました。

3.1.3.3. 注意事項:

以下に、同一セグメント内でシステムリカバリサーバ(=瞬快サーバ)を複数設置する場合の注意事項を記載します。

項番	注意事項
1	Rel4.0a 以降のシステムリカバリサーバ以外の PXE サーバが同一セグメント内に存在した場合、正常に動作しません。 例えば Rel4.0 や、Rel3.X 系のシステムリカバリサーバと同一セグメントに立てる事はできません。 同一セグメントに複数設置できるのは Rel4.0a 以降のシステムリカバリサーバ同士になりますのでご注意ください
2	システムリカバリサーバ(=瞬快サーバ)を複数設置する場合、各サーバ環境と同一のマシン上で DHCP サーバを動作させる事はできません。 DHCP サーバは、システムリカバリ機能を動作させるマシンとは別マシンで稼働させてください。
3	瞬快でご提供しております、簡易 DHCP サーバ機能はご利用になれません。
4	同じクライアント PC の情報を各システムリカバリサーバ(=瞬快サーバ)に登録した場合、正常に動作しません。 (クライアントに対して、複数のサーバから命令が返される事になり、ネットワークの関係で先に命令を返したサーバの情報が優先される事になり、利用者の意図しない動きをクライアント PC が行う場合があります)
5	ひとつのシステムリカバリサーバで、クライアント PC のリモート登録が実行されている間、他のシステムリカバリサーバの機能は利用できない状態になります。 (クライアント PC のリモート登録を実行している間は、システムリカバリサーバに登録されていないクライアント PC にも PXE 応答をするため、他のシステムリカバリサーバの命令と干渉してしまい、正しく動作しません)

3.2. サービスの予約機能強化

3.2.1. サービスを予約状態とした場合、明示されるまで継続して予約状態とする

3.2.1.1. 従来の問題点

従来のサービス予約機能は、予約したサービスが一度実行されてしまうと、予約状態が解除され、次回実行時に再度予約状態にする必要がありました。この問題によりサービスのスケジュール運用が困難でした。

3.2.1.2. 解決方法

今回、予約したサービスが一度実行された場合でも、実行が終わると予約状態に戻るよう修正しました。

3.2.1.3. 注意事項

以下にサービスの予約機能を利用する際の注意事項を記載します。

項番	注意事項
1	予約状態のサービスをシステムリカバリ管理機能より、即時実行した場合、サービス実行後に、予約状態は解除されます。
2	予約状態のサービスにて、"サービスの停止"を実行すると、予約状態は解除されます。
3	"ディスクイメージの取得" サービスを自動実行とした場合、同じディスクイメージ上に上書きします。 上書きさせたくない場合は、実行前に以下のディレクトリにあるフォルダ名を変名することにより対処可能です。 パス： システムリカバリサーバインストールフォルダ配下の depot¥Cloneimg¥%サービスに設定されているディスクイメージ名% このフォルダの名前を"ディスクイメージの取得"サービス実行前に日付名に変更するバッチ等を作成することにより、上書き保存を回避できます。 変名したフォルダのディスクイメージリソースは、サーバOS やシステムリカバリサーバの再起動をすることなく、自動で変名した名前で登録されます。

3.3. DNS アドレスの設定

3.3.1. ディスクイメージ配信後の後処理にて、個別に DNS アドレスの設定を可能とする

3.3.1.1. 従来の問題点

DNS アドレスの設定を変更できなかったため、以下の制約がありました。

機器構成がまったく同じでも DNS アドレスが異なるため、ディスクイメージを2つ取得する必要があった。

DNS アドレスの設定が指定できなかったため、後処理に関して以下の操作ができなかった。

- 固定 IP アドレスで取得したディスクイメージを DHCP アドレス設定で配信
- DHCP アドレスで取得したディスクイメージを固定アドレス設定で配信

3.3.1.2. 解決方法

優先 DNS アドレス、代替 DNS アドレスを Windows 環境、Linux 環境において設定可能とすることで、上記の問題を解決します。

3.3.1.3. 注意事項

本機能を利用される場合は、瞬快管理機能、サーバ機能を Rel 4 . 0 a にレベルアップしていただく事はもちろんですが、クライアントに対しては、瞬快クライアント及びシステムリカバリクライアントを Rel 4 . 0 a にレベルアップしていただく必要がございますのでご注意ください。

システムリカバリ機能で DNS アドレスを設定していない場合、イメージ配信を行うと以下の動作になります。

クライアントの所属するグループの IP アドレス指定	DNS サーバの設定値	DNS の指定方法
固定 IP アドレスグループ	配信イメージ内で設定されている DNS アドレスを使用	「次の DNS サーバのアドレスを使う」が ON
DHCP アドレスグループ	指定なし	「DNS サーバのアドレスを自動的に取得する」が ON

ここで言うグループとは、瞬快管理機能のグループの事です。

上記動作で不都合がある場合には、各クライアントの DNS レコードを設定して頂きますようお願い致します。(特に、従来 Rel 4 . 0 をお使いのお客様で、今回 Rel 4 . 0 a にレベルアップをされたお客様)

以下のケースが最も注意する必要があります

ケース	現在、DHCP 環境下でクライアントを運用している環境で DNS アドレスを固定アドレスで指定している場合 (各クライアントの IP アドレスは DHCP から自動取得しているが、DNS アドレスはクライアント個別に指定して運用されているような環境)
	このような環境に対して、瞬快 Rel 4 . 0 a にレベルアップ後、以下のサービスを実行した場合 「Windows 環境の設定」サービス 「イメージの配信」サービス この場合、DNS アドレスの指定方法の初期値が「自動で取得」に変更されます。 その他のケースでは、DNS アドレスが未設定の場合でも既存の設定を流用するため、問題ありません

3.4. OS 所有者/組織情報の設定

3.4.1. OS の所有者/組織情報の設定を個別に指定可能とする

3.4.1.1. 従来の問題点

イメージ配信処理においてクライアント単位に組織情報、所有者情報の設定が変更できなかったため、機器構成が全く同じ環境でも、当該情報が変わる場合、ディスクイメージを別途用意する必要がありました。(もしくは、イメージ配信後、クライアント毎に情報を変更して廻る必要がありました)

3.4.1.2. 解決方法

イメージ配信後の後処理にて、WindowsOS の組織情報、所有者情報を変更することを可能にしました。これによりイメージの可用性が、より高まりました。

3.4.1.3. 注意事項

本機能を利用される場合は、瞬快管理機能、サーバ機能を R e l 4 . 0 a にレベルアップしていただく事はもちろんですが、クライアントに対しては、瞬快クライアント及びシステムリカバリクライアントを R e l 4 . 0 a にレベルアップしていただく必要がございますのでご注意願います。

- ・ Rel4.0 より Rel4.0a へレベルアップした際、初期値では、システムリカバリ機能は持つ、個々のクライアントの所有者情報、組織情報は未設定となっています。
これらの情報が未設定の場合は、配信するイメージ内で設定されている内容をデフォルトで設定します。

4. ウィルス対策ソフト連携機能

4.1. 新ウィルス対策ソフトへの対応

瞬快 R e l 4 . 0 a から新たに以下のウィルス対策ソフトと連携を行う事が可能となりました。

- McAfee 社 ManagedVirusScan
- トロントマイ知社 ウィルスバスターコーポレートエディション (バージョン 7.0)
- F-Secure 社 F-Secure クライアントセキュリティ

瞬快 R e l 4 . 0 で連携している全ウィルス対策ソフト情報については、瞬快のホームページを参照ください。

5. サポートOS

5.1. Microsoft Windows Server 2003 ServicePack1 への対応

瞬快 R e l 4 . 0 a から新たに、Microsoft Window Server 2003 ServicePack1 に対応いたしました。

5.2. 瞬快サーバ機能のサポートOSの追加

5.2.1. サポート追加されたOS

瞬快 R e l 4 . 0 a から新たに、瞬快（並）製品上の瞬快サーバ機能を Microsoft WindowsXP HomeEdition(SP1/SP2)にインストール可能といたしました。

5.2.2. 注意事項

サーバ機能を Microsoft WindowsXP HomeEdition(SP1/SP2)上にインストール可能な製品グレードは、「並」のみとなりますのでご注意ください。（資源配付オプション付き及びその他のグレードにつきましてはサポート対象外となります。）

6. インストーラ

6.1. スタンドアロン運用時におけるサーバ設定方法の変更

6.1.1. 従来の問題点

従来の瞬快クライアントインストール機能は、管理機能及びサーバ機能を利用しないスタンドアロン運用時においても、インストール時に必ずサーバ名の設定が必要となっておりました。そのため、スタンドアロン運用を実施する場合、瞬快クライアントインストール時に、ダミーのサーバ名を指定する必要がありました。

6.1.2. 解決方法

瞬快クライアントインストーラに、「クライアントをスタンドアロンで運用する」チェックボックスを追加し、このチェックボックスをチェックすることによってサーバ名の指定が不要となるように処理を変更いたしました。

6.1.3. 注意事項

この変更による注意事項はありません。

7. ソフト検証

7.1. AutoCAD 2006 との共存について

瞬快 R e l 4 . 0 a と AutoCAD 2006 の共存について検証を行いました。検証の結果は以下の通りとなりますので、共存させる場合にはご注意ください。

【AutoCAD 製品のライセンス体系について】

AutoCAD の製品には大きく、「スタンドアロン インストレーション」と「ネットワーク ライセンス」の 2 つの製品体系があります。

検証結果は、それぞれの製品体系によって違いがありますのでご注意ください。

7.1.1. 検証結果

7.1.1.1. AutoCAD 2006(ネットワーク ライセンス)での運用を行う場合 (推奨)

特に問題ありません。

7.1.1.2. AutoCAD 2006(スタンドアロン インストレーション)での運用を行う場合

システムリカバリ機能を利用する際に留意事項があります。

AutoCAD 2006 を含めた環境をシステムリカバリ機能を利用しイメージ配信した場合、展開先にて AutoCAD 2006 を再アクティベーションする必要があります。

同様に、ディスク異常などによりシステムリカバリ機能で、イメージから復旧を行った場合も、アクティベーション処理が必要となります。

また、ひな型環境に AutoCAD 2006 を含めない場合は、配信先にて個別に AutoCAD 2006 をインストールし、アクティベーション処理を行う必要があります。

このように「スタンドアロン インストレーション」の運用で、システムリカバリ機能を利用する場合には、展開や復旧に時間がかかりますので「ネットワーク ライセンス」での運用を推奨します。

- 以上 -